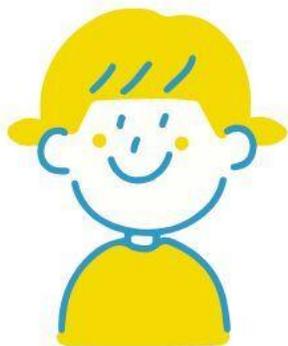




令和7年度 奈良県幼・小・中・義務教育学校

教育課程研究集会

中学校 国語科



# 学習指導要領の趣旨を踏まえた 指導の在り方について

奈良県教育委員会事務局  
義務教育課  
授業力向上係  
指導主事 澤 裕史

# 学習指導要領を確認しましょう

## 第1節 国語

### ●第1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科  
の目標

### ●第2 各学年の目標及び内容

#### (第1学年)

##### 1 目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

各学年  
の目標

##### 2 内容

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。
  - イ 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字の

各学年  
の内容



文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)」

# 中学校国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

[知識及び技能]

(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

[思考力、判断力、表現力等]

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

[学びに向かう力、人間性等]

「中学校学習指導要領解説(平成29年度告示) 国語編」

# 「言葉による見方・考え方」を働かせる

「生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 p.12

「言葉」にこだわること

# 何を学ぶのか

国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習の対象としている。

# 語彙指導の改善・充実

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。

# 語彙指導の内容

各学年の指導事項は、重点を置くべき指導内容を明確にし、系統化を図っている。

学年	語句のまとめ	語句への理解
1	・事象や行為、心情を表す語句	・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意
2	・抽象的な概念を表す語句	・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解
3	・理解したり表現したりするために必要な語句	・慣用句や四字熟語などについて理解を深め ・和語、漢語、外来語などを使い分ける

語句の量を増すこと



語句についての理解を深めること

語感を磨き語彙を豊かにする

# 学習の系統性の重視

## C 「読むこと」の指導の系統表(一部抜粋)

C 読むこと		(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年	(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年			
		(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。			(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。					
構造と内容の把握	ア	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	ア	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。	ア	文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。	ア	文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。
	イ	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	イ	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。				
精査・解釈	ウ	文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。	ウ	目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。	イ	目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。	イ	文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。
	エ	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	エ	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。	ウ	文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。	ウ	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としている。

# 言語活動の創意工夫

(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。	ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。	ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。
イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。		
ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。	イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。 ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。	イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。
エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。	エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。	ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かかなものにする。	オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。	エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

## 指導事項

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
ア 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。	ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。	ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。
イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。	イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。	ウ 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。	ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導する基とする。

## 言語活動例

# 言語活動の創意工夫

「思考力・判断力・表現力等」

C読むこと

(1)

エ 文章の構成や論理の展開表現の効果について考えること。

(2)

ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめる活動。

指導事項

言語活動例

言語活動を通して  
指導事項を指導する